



令和4年3月1日現在	
総世帯数	1,370世帯
総人口	2,461人
男	1,174人
女	1,287人

昭和39年頃の町並み地図

飯田町2丁目公民館長

村上 圭子

17年前に山崎貢監督の「ALWAYS三丁目の夕日」が上映された。東京オリピック開催を間近に、日本の高度経済成長期の最中を見事に描き、その一方で下町を舞台に様々な人間模様を描いた心温まる作品でもあった。

そんな昭和期の町会の地図が手に入った。あやふやな所があり不確かなもの。町内公民館活動で、この地図をもっと詳しく正確に作り直そうと2回に分けて取り組んだ。

まずは、原本の地図を皆さんにあらかじめ配り、覚えていく範囲内で書き込んでもらい、それを持ち寄って検討した。女性の多くはこの頃は嫁いで来ていない。男性方も10代から20代の頃で記憶もおぼろげではっきりしない。もう少し上の年代の方にお話を伺うとしても、その当時を知る人は少なく困難極まった。

2回目は、検討して作った地図を基に、記憶を頼りに情報交換して話し合い、どうにか当時の地図が、ほぼ出来上



飯田町2丁目婦人会創立記念

(昭和34年)

春の訪れ

常盤町町会

小穴 真一

「あつ、メジロー」
メジローのつがいが庭の松の木に留まっていた。ここ数年、庭で見るとはなかった。メジローが来ると春の訪れを実感する。

以前、東京都の練馬区に住んでいた。家の周りには自然

があった。

その頃と現在を比較してみると、住宅の世帯数は、さほど変わらないものの昭和の頃は、借家や商店・職人さんが多く、家並みがぎっしりあり賑やかな町内であった。それに比べ現在は、テナント店や駐車場が多く、アパート・マンション、空き家もあり寂しい限りだ。

また、その当時の古い写真の提供があり大いに盛り上がった。初めての婦人会設立頃で、40数名のご婦人方が写っていた。虫めがねで自分の母親がいるのを見つけると大はしゃぎ。若い頃に想いを馳せ楽しい時間を共有した。コロナ禍ではあったが、多量なりとも町会の皆さんの触れ合いの場となり良かった。



が残っていて、メジローもたくさん飛んで来た。それがあるとき、パタリと来なくなった。近所の人たちも、不思議がっていた。それが何年も続いていた。

密猟されていたのだ。メジローを捕まえて、自宅の屋上にメジロー小屋を設けて楽しんでる者がいたのだ。お気に入りメジローを数羽選んでカゴに入れ、階下を持ってきて愛でていたところを通行人に見つかり通報された。

まさか、メジローが密猟されていたとは。しかも町でよく会う人が犯人だったとは…松本に来て10年が過ぎた。常盤町にはチョウゲンボウ(ハヤブサ科)が棲んでいる。春になるとカラスの大群とチョウゲンボウの親鳥たちとの戦いが始まる。カラスが卵

やヒナを狙っているのか。常盤町の目抜き通り(都市計画道路小池平田線)上空での攻防。

カラスに襲われるチョウゲンボウも、飛び練習をしている子ツバメを捕食する。怒り狂って攻撃してくる親ツバメを気にすることもなく、親ツバメの目の前で悠然と食べるチョウゲンボウ。その様は衝撃だった。襲われ襲う自然界って厳しい。

ヒトがメジローを、カラスがチョウゲンボウを、チョウゲンボウはツバメを襲つ。ヒトは新型コロナウイルスに襲われている。ワクチン開発、手指消毒、手洗い、マスク着用など英知を集めた取り組みがまだまだ続く。

春の訪れは、生き物の世界の厳しさを思い知らせる。

公民館報編集委員

退任挨拶

井野根 修

私、この3月末をもって館報編集委員を退任することといたしました。

『10年ひと区切り』と決めて辞めようと考えていましたが、編集委員が3人だけになってしまった状況に思いが遂げられず、今年度になって増員がなった機会に辞める意志を固めた次第です。在任期間は21年になっていました。

初めて委員会に出席したのは40歳代でした。諸先輩に囲まれて凄く緊張したことを覚えています。また、あちこち取材にも出かけました。ひとつひとつが思い出です。公民館報をお読みいただいている皆様には長くお付き合いいただき、ありがとうございます。感謝しています。



平成15年 魚つかみ大会



平成26年 ちこり村視察

三九郎

第二地区子ども会育成会

副会長 降旗 奈穂子



「みんなで合同三九郎」をテーマに松本市第二地区子ども会育成会にて、令和4年1月15日(土)に、町会合同三九郎を行いました。

近年、子どもの減少で三九郎の実施が難しく、なんとか子ども達に伝統行事である三九郎を楽しんでもらおうと、子ども会育成会で話し合い、初めての試みでありましたが無事開催することができました。

事前に地区18町会に呼びかけ、第二地区公民館まで住民の皆さんがお正月飾りや、だるまを持ち込んでいただきました。町会の皆さんのおかげで、予想をはるかに超える量が集まり、前日に役員で針金

などを取り除く作業や、だるまの縄通しを行いました。

当日は、朝からお手伝いをしてくれる町会の有志の方々と、大きなやぐらを2基作る事ができました。16時の点火時点で親子連れが約100名ほど集まりました。初めて三九郎のやぐらを見た子ども達もいて、大喜びでした。子ども達は、「来年は、繭玉を色々な形に作ってみたいな。」「今度は、ウインナーを刺してこよう。」「と来年の三九郎の話をしている子もいました。

「新型コロナウィルスが早く収まり、元の生活に戻れますように」とみんなで願い、無事怪我も無く開催することができました。地区の皆様、第二地区子ども会育成会への協力、誠にありがとうございました。



福祉ひろば・公民館

開館25周年

平成10年の開館から大勢の皆様にご利用いただいている第一地区福祉ひろば・公民館も本年4月に開館25周年を迎えます。思えば、公共施設不毛の地にできた福祉ひろば公民館。先人の皆様、中でも公民館建設常任委員会の方々にはご尽力をいただいた事と存じます。初心を忘れずに地区にふさわしい公民館活動に努め、一層多くの皆様にご利用いただける公民館を目指します。

【公民館の利用について】

- ◆個人での利用はできません。
- ◆利益のみを追求することを目的とする活動は利用できません。
- ◆学習、文化活動、交流などであれば使用料が減免となります。

〔利用例〕

体操、ヨガ、合唱、俳句、詩吟、絵画 など 気軽に公民館までご相談ください。

すずき川

SBCラジオ朝の番組「坂ちゃんのすくたせえぶり」で以前、坂橋克明アナがこんなことを語っていた。

「旧家では、季節ごとの催し事をきちつと行う。だが旧家だからそれをやるのではなく、そういうことをきちつとやる家が旧家になつていくのである」と。なるほど、けだし名言と思う。ここ2年あまり、コロナ禍で伝統的な事業・行事が軒並み中止或いは縮小の止むなきに至っている。

中には、これを機会に「楽しいから一層のことやめよう」といった風潮も耳にする。果たしてそれでいいのだろうか? 「文字を持たない民族は滅ぶ」という。祖先から受け継がれた文化や伝統が継承されていかなければならないからだと思う。

冠婚葬祭などの儀式は、本来の目的とは別に、日頃疎遠となつている親族や友人たちが集まって旧交を温める場でもあり、過去のわだかまりを捨て、関係を修復できることもあるかも知れない。

令和4年度こそ、各種事業が計画どおりに実施できることを期待したい。(川上七)